

「出る杭は打たれる。出過ぎた杭は打たれない」

先進的ケア・ネットワーク開発研究分野 介護支援専門員 山口 真顧人

出る杭は打たれる。と言います。

しかし、石川先生のように信念を貫き、やり抜き通すことで、その先の世界が見える。まさに、貫き通した人にしか見えない世界だからこそ、打つ人すらいない境地にたどり着いたのだと感じました。

私は医療職ではありません。しかし、介護支援専門員という職業上、「地域医療」の実現という課題は避けては通れません。

「地域で暮らす」「住み慣れた場所でその人らしく暮らす」ということは、我々、介護支援専門員にとって、必ず成し遂げなければならない課題であると実感しています。

そのためには多職種連携が不可欠です。

職種の垣根を越えて、チームとして一人の利用者をみる。

どの職種が上とか下ではない。利用者や家族からしてみれば、それは関係のないこと。

医療・福祉のプロとして、利用者が地域で暮らすこと、ADL や QOL を向上させ、住み慣れた地域で、存在意味を失うことなく、暮らし続けていくことを本気で考え、実践していかなければいけない。

そう、実感しました。

医師、看護師、リハビリ士、介護福祉士、介護支援専門員等、それぞれにしかできない専門性もある。

しかしそれは、チームで動いて初めて各職種の専門性が生かされるのだと思います。

1. 正しさを追求する精神
2. チャレンジ精神
3. 損得抜き精神
4. 障害を有する人々と共に歩む精神
5. One for All, All for One

この「リハビリテーション・マインド」を胸に刻み、明日からの業務にあたります。素敵なお話を聴かせていただき、ありがとうございました。